

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2005～2008

課題番号：17320030

研究課題名 (和文) モダニズムと中東欧の近代芸術に関する国際・学際共同研究

研究課題名 (英文) Transnational interdisciplinary studies on modernism and Mid- and East-European modern arts

研究代表者

囃府寺 司 (KODERA TSUKASA)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50205340

研究成果の概要：中東欧諸芸術を、その本国との連携を強めながら学際的に研究するという目的は、各研究者がポーランド、チェコ、ハンガリー、ブルガリア等のフィールドで行ってきた調査研究、ならびに本国の研究者との協力によって達成されてきた。具体的には以下にあげた日本語ならびに外国語の研究論文、学会発表、著書によって、本研究の四年間の成果は十分に発表されてきたといえよう。また、現在、執筆中の研究成果もいくつかあり、今後数年間にもさらなる成果の公表が期待できる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	3,700,000	0	3,700,000
2006 年度	2,900,000	0	2,900,000
2007 年度	3,300,000	990,000	4,290,000
2008 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
総計	12,900,000	1,890,000	14,790,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学・美術史

キーワード：中東欧、モダニズム

1. 研究開始当初の背景

19 世紀末から 20 世紀の前半、即ちモダニズム芸術(観)の生成期において、中・東欧地域の芸術運動、芸術家、批評家らが大きな役割を果たしたことは間違いない。しかし、社会主義国家の成立とその後の冷戦構造の継続によって、この時代についての研究は大幅に遅れ、資料や情報もほとんど提供されない状態になった。東側、西側諸国のいずれにおい

ても研究の遅れは著しい。しかし、冷戦構造の崩壊後、中・東欧地域へのアクセスが容易になり、現地の研究者も国外とのコミュニケーションを求めはじめ、本格的な共同研究が可能になりつつある。

従来、日本でも中・東欧研究は行なわれていたが、主に言語、文学、社会科学の分野が中心で、芸術研究においてこの地域を専門とする研究者は、ごく少数のロシア研究者を除けば皆無といってよかった。また、他分野の

研究者もロシア、ポーランド、ハンガリー、チェコなど個々の国の専門家であり、言語の壁もあって、中・東欧地域を包括的に取り扱うことは困難であった。近代芸術の領域においては、中・東欧と西欧諸国間の国境の壁を越えた人的、物的、精神的交流こそが重要な意義をもつため、一言語、一国家を対象とする研究ではその全容は到底捉えきれない。日本の芸術研究においても近年、この地域を専門とする若手・中堅研究者が現れ、各国から発信される情報も次第に入るようになってきた。

2. 研究の目的

本研究は上記のような状況を利用し、近代ヨーロッパの諸芸術を「東側」も含めて再構築し、モダニズム運動の全貌を明らかにしようとするものである。

長期的に見れば、本企画調査は単に芸術における中・東欧地域の包括研究だけをめざすものではない。かつて存在していた西・中・東欧の緊密な関係を再構成し、近現代芸術の汎ヨーロッパ的状況をその動態において捉えることによって、冷戦期以来、もっぱら西欧の文化的「列強国」とアメリカ合衆国によって産出、流通、消費されてきた近代芸術の図式、チャート、制度を、その根底から再考することにある。

3. 研究の方法

- (1) 中東欧諸国の言語をすでに習得し、あるいは習得しつつある国内研究者と連携し、当該諸国の研究者、研究機関とのネットワークを形成しつつ、情報源を確保する。また、必要に応じて、中東欧諸国で使われていた諸言語を新たに習得する。
- (2) 研究分担者は各自のフィールドにおいて調査研究をすすめ、若手の育成にも努める。
- (3) 研究成果は論文、著書、翻訳などの形で社会に公表する。

4. 研究成果

中東欧諸芸術を、その本国との連携を強めながら学際的に研究するという目的は、各研究者がポーランド、チェコ、ハンガリー、ブルガリア等のフィールドで行ってきた調査研究、ならびに本国の研究者との協力によって

達成されてきた。具体的には以下にあげた日本語ならびに外国語の研究論文、学会発表、著書によって、本研究の四年間の成果は十分に発表されてきたといえよう。また、現在、執筆中の研究成果もいくつかあり、今後数年間にもさらなる成果の公表が期待できる。

研究成果はいずれも各国の地域研究的な芸術研究にとどまらない。圀府寺、加須屋はポーランド美術における諸相をその国際的な関係、コンテクストの中で研究してきたし、井口はチェコのデザインについて、伊東はブルガリアなどの音楽活動について、永田はロシアと日本の演劇について、いずれもグローバルなモダニズムのあり方を問い直す姿勢から研究を結実させてきた。実際、これらの研究は、従来の芸術研究において視野の外にありながら実はモダニズムの根幹に関わっていた現象の多くを掘り出してきた。それらの研究成果は、本研究が目指した「モダニズム的な芸術観の見直し」を具体的知見、情報を提示するものとなっている。その意味で、今後続いていくべき研究に適切な方向を示したといえるであろう。また、本研究に関わった大学院生の中には現在、中東欧諸国に留学して研究しているものも何名かおり、今後の研究の担い手となっていくことが期待できる。

本研究プロジェクトを通して、これまで情報の乏しかったポーランド、チェコ、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリアなどの諸芸術について多くの知見を得ると共に、『アヴァンギャルド宣言』の刊行などにより、これらの諸国のモダンアートの状況を広く紹介することも行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

- ① 三谷 研爾「不適應のトポグラフィー カフカ『失踪者』における都市空間と物語」日本学術振興会 人文・社会科学振興プロジェクト研究「芸術とコミュニケーション」報告書 2009年(印刷中)査読有
- ② 圀府寺 司「美術の動態地理学あるいはジオヒストリーに向けて」『西洋美術研究』14、2008年、8—11頁、査読有
- ③ 圀府寺 司「〈芸術、国家、世界〉AICA国際会議(ポーランド1960年)におけるモダンアートの国際性に関する〈議論〉」『西洋美術研究』14、

2008年、121—137頁、査読有

- ④ ITO Nobuhiro, “Az utolsó hiányzó láncszemek : Bartók: Negyvennygy duó, 8. sz. - a „Tót nóta” eredeti népzenei forrása” *Parlando* 50, év-folyam, 2008年、7-10頁、査読有
- ⑤ 井口 壽乃 「仮設的電光建築にみるチェコ・アヴァンギャルドのデザイン：ペシヤネクのライト・キネティック広告からクレイツァルの1937パリ万博パヴィリオンまで」 『デザイン史学』 6、2008年、87-105頁、査読有
- ⑥ Yasushi Nagata “Portraits of Family in Contemporary Japanese Theatre”, 演劇フォーラム（韓国語）2008年193-209頁 査読有
- ⑦ 永田 靖 「パフォーマンスの介入」 『テキストの生成と変容』 2008年、19-31頁、査読無

〔学会発表〕（計 5 件）

- ① 伊東 信宏 「ブルガリアの「チャルガ」＝「ポップフォーク」におけるロマの位置」 人間文化研究機構 連携研究年度末シンポジウム「パフォーマンスと文化—ユーラシアと日本における交流と表象—」 2009年3月27日 国立歴史民俗博物館講堂
- ② 加須屋 明子 「カトヴィツェの前衛」 地域研究コンソーシアム・次世代ワークショップ「人文的アプローチによるポーランド地域主義研究——文学・芸術・言語を通して考えるポーランドの周縁地域——」 2009年1月10日 東京大学
- ③ Toshino Iguchi, Czechoslovak Avant-garde Design as Construction: The Czechoslovak Pavilion at the International Exhibition of Art and Technology in Modern Life, Paris 1937, The 6th International Conference of Design History and Design Studies, 26 October 2008 Osaka University Nakanoshima Center.
- ④ 加賀屋 明子 「ポーランド現代美術の一考察：バウカ、ジミェフスキらを中心に」 第五回EU中央ヨーロッパ研究会

- ⑤ Yasushi Nagata “Pilling Asia on Asia-Theatrical Syncretism in Postwar Japanese Theatre”, Annual Conference, International Federation for Theatre Research, July 17, 2008, Chuan Gaung University, Seoul

〔図書〕（計 3 件）

- ① 伊東 信宏 『中東欧音楽の回路』 岩波書店 2009年 219頁
- ② 山田陽一・伊東 信宏 『音楽する身体：「わたし」へと広がる響き』 昭和堂 2008年 280頁
- ③ Ravi Chaturvedi・Y. Nagata 『Theatre and Democracy』 Rawat Publications 2008年 185-197頁

〔その他〕

井口 壽乃 園府寺 司 編 『アヴァンギャルド宣言 中東欧のモダニズム』 三元社 2005年 285頁 翻訳・執筆：三谷 研爾、加須屋 明子、伊東 信宏

6. 研究組織

(1) 研究代表者

園府寺 司 (KODERA TSUKASA)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：50205340

(2) 研究分担者

永田 靖 (NAGATA YASUSHI)
大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：80269969

伊東 信宏 (ITO NOBUHIRO)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：20221773

井口 壽乃 (IGUCHI TOSHINO)
埼玉大学・教養学部・教授
研究者番号：00305814

加須屋 明子 (KASUYA AKIKO)
京都市立芸術大学・美術学部・准教授
研究者番号：10231721

三谷 研爾 (MITANI KENJI)

大阪大学・文学研究科・教授
研究者番号：80200046

(2) 連携研究者
なし

(3) 研究協力者

Jerzy Malinowski (Torun University,
Poland) トルン大学美術史学科・教授

Eleonora Bergman (Jewish Historical
Museum, Warsaw) ポーランド、ワルシャワ・
ユダヤ歴史博物館・館長

Joachim Pissarro (City University of New
York) ニューヨーク市立大学・教授

Gail Levin (City University of New York)
ニューヨーク市立大学・教授

Ziva Amishai-Maisels (Hebrew University
of Jerusalem) ヘブライ大学・名誉教授